

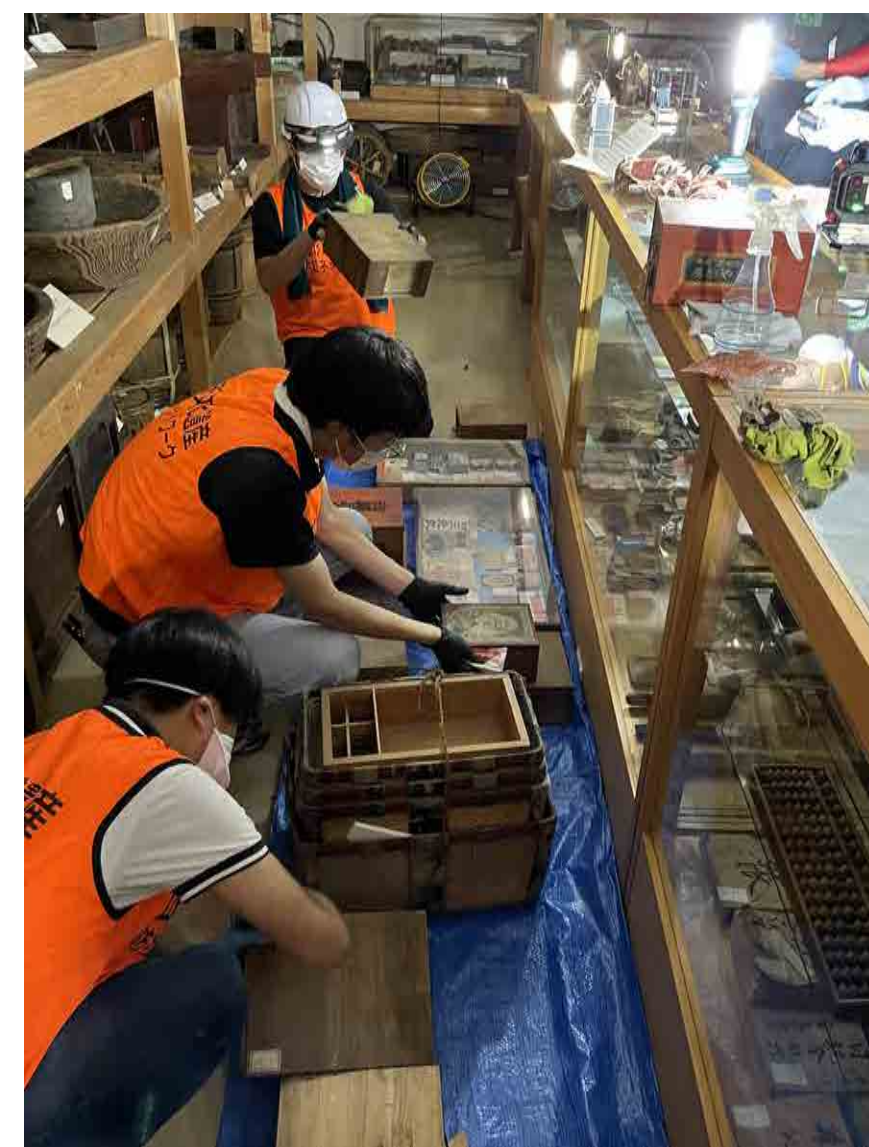
山形文化遺産防災ネットワークの 活動報告 2025（令和7）年

佐藤 真海

2024 年 7 月豪雨被害 その後の活動

【2024 年 8 月の様子】
停電のため
暗く蒸し暑い環境で作業

2024 年 7 月 25 日に山形県北部を襲った豪雨によって、新庄ふるさと歴史センターでは地下の展示・収蔵空間が浸水し、市指定文化財「雪国の民具」12,000 点のうち 3,003 点が水に浸かる被害があった。山形文化遺産防災ネットワークは、新庄市、山形県、国立文化財機構文化財防災センター、県博物館連絡協議会加盟館、山形大学、東北芸術工科大学、筑波大学、県埋蔵文化財センターらと連携し、文化財レスキューにあたった。2024 年 8 月 4 日～11 月 4 日で計 6 回にわたりレスキュー活動を行い、水損資料の乾燥・クリーニング・除菌、また浸水した地下空間の清掃・除菌・環境改善を実施した。



【2025 年 9 月のクリーニング作業】
地下空間の一部で照明・電気が使えるようになった

冬期間は低温のため安定した環境を維持できたが、発災から 1 年が経過し、夏期の温度・湿度の上昇とともにカビの発生・拡散リスクが高まったため、2025 年 7 月 8 日に地下空間に置かれたままの脆弱な資料を地上へと搬出した。また 9 月 9 日に集中クリーニング作業を実施し、カビの発生がみられた資料をハケや掃除機でクリーニングし、エタノールを塗布して除菌した。再びカビが生えないよう、資料と床面の間にスノコを入れ、空気の流れができるように工夫した。地下空間のほかの箇所でも、清掃・除菌を実施した。新庄ふるさと歴史センターでは 1 階部分の大半で一般公開を再開したが、1 階の一部と 2 階、そして地下空間は非公開のままであり、本格的な復旧・再開にはまだ時間が必要である。

研修会

会員のスキルアップと非常時の対応力強化のため、講師を招いた講義や実技の研修会を開催している。

- 1/23
 - ・パネルの下張り剥がし
 - ・新庄ふるさと歴史センター資料レスキュー活動報告会
- 3/30
 - ・拓本講習会
岩坪充雄氏
(日本近世書道史研究家)
- 5/10
 - ・パネルの下張り剥がし
 - ・総会
- 11/24
 - ・歴史文化資料の保存と救済
天野真志氏
(国立歴史民俗博物館)
 - ・パネルの下張り剥がし



山形県文化財日常管理・防災研修会とハンドブック

2024 年に山形県により山形ネットも編集に加わった『文化財日常管理・防災ハンドブック(美術工芸品)』が発行された。本ハンドブックを受けて、県の主催により「山形県文化財日常管理・防災研修会」が開催された。昨年の村山・庄内地域での開催に引き続き、今年は 9/6 に置賜地域（米沢市）、11/29 に最上地域（新庄市）で行われた。本研修会では、文化財所蔵者などに向けて、東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターと国立文化財機構文化財防災センターの専門家による講義や、県担当者による行政手続の説明が行われた。山形ネットも個別相談ブースを設置するとともに、これまでの活動紹介を行った。



ハンドブックは QR からダウンロードできます

